釧路、根室地方ゆかりの人々 ふるさと応援インタビュー

釧根人

中部・関西でビジネスチャンス広げて

株式会社カイタクシ
代表取締役 **丹野 北斗さん**

「釧路に行くと必ず立ち寄るのは『ろばた鱗』。大好きな夕チを使った料理と名物・福司の〝だら爛〟を楽しみにしています」と丹野さん

たんの・ほくと　1989年札幌市生まれ。札幌市立あいの里東小学校、同あいの里東中学校、北海道札幌北高等学校を経て、2012年釧路公立大学経済学部卒業。測量機器の専門商社やマーケティング分野のコンサルティング企業などを経て、24年に札幌市北区で株式会社カイタクシを創業し、代表取締役に。「FAIRINO協働ロボット」の正規販売代理店を務め、協働ロボットの導入・運用支援のコンサルティング業務を全国規模で展開している。

（158）

―札幌の高校を卒業後、釧路の大学に進まれました。

丹野　2008年に釧路公立大学に入学し、4年間過ごしました。夏が涼しくて過ごしやすい釧路の気候が、すっかり気に入りましたね。

―当時の思い出は？

丹野　大学3年生の時から2年間、NHK釧路放送局でアルバイトをしていました。取材現場で照明や音声を担当するライトマンとして、道東各地をくまなく巡りましたし、東日本大震災の際は、バイトの身ながら札幌まで応援で出張したこともありました。

―最近、釧路を訪ねる機会はありますか。

丹野　ゼミの仲間たちとは今でも仲が良く、釧路に集まって飲みに行くことも。釧路産の海の幸が大好物で、ほかの地域の魚介類は食べないというほどほれ込んでいるので、毎回楽しみにしています。

協働ロボット普及に尽力

―多彩な職歴をお持ちです。

丹野　測量機器の専門商社に勤めている時は機械の仕入れを担当。また、東京のマーケティング系の企業に転職してからは、市場調査や新規事業の立ち上げに携わりました。

―独立後の業務内容は？

丹野　2024年に協働ロボットの導入・運用を支援する株式会社カイタクシを創業しました。低コストで現場に導入できる、中国のメーカーが製造する「FAIRINO協働ロボット」の正規販売代理店として、コンサルティング業務を展開しています。

―手応えはいかがですか。

丹野　自動車部品や電子機器の製造現場を中心に、人手不足や作業の自動化への対応が急務になっています。スタッフと一緒に働く協働ロボットへの関心は高く、全国から問い合わせをいただいている状況です。安全性が高く、高精度な繰り返し作業に強いロボットのメリットを生かして、現場の問題解決に貢献すべく、全国を飛び回っています。

製品のリユース事業も

―道内の導入状況は？

丹野　まだまだこれからといったところです。今、北海道の企業の課題になっているのは事業の継続です。ロボットを活用して生産力を維持することで、地域産業の存続や発展、さらには雇用の創出に寄与できればと思います。

―今後の事業展開について教えてください。

丹野　いったんは導入したものの、使われなくなったロボットの再生・再活用サービスを始めました。国の方針もあり、今後はますますロボットの導入支援が進む機運が高まっています。コンサル面の強化と併せて、リユース事業にも力を入れていきたいですね。

―釧路経済への提言を。

丹野　飛行機でのアクセスの利便性は、札幌発でも釧路発でも、さほど変わりません。すでに取り組んでいる企業も多いですが、札幌や東京だけではなく、中部・関西などの大都市に打って出た方が、ビジネスチャンスが広がるのでは、と可能性を感じています。

（取材＝札幌・亜璃西社）